いつでも、どこでも、だれでも、ピタッと畦（ROW）のど真ん中!!

AROT Automatic Row Tracer がもたらす ビート収穫　異次 元の世界!!

傾斜地で大活躍！４３０シリーズ

広大な畑で大活躍！６６０シリーズ

★掘り取り中は常に畦のど真ん中

ＳＦＩＡ式畦合わせセンサーが常にビートの列を感知して、掘取口が畦の真ん中にくるように合わせてくれます。「オペレーターは後ろを気にせず、トラクターを畦に沿って走らせるだけ」でビートをらくらく収穫。

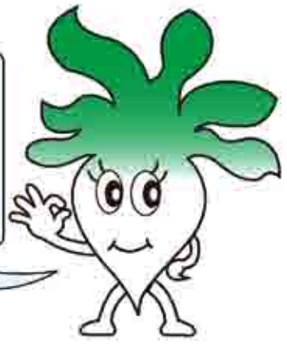
★旋回中に掘取口を自動修正

つぎの畦に入った時に掘取口が畦に合っていない、後ろを見ながら手動で調整する。こんなめんどうな操作が一切不要!!ロワーリンクを上げると同時に「ＡＣＴＲＥＳ」が掘取口を真ん中に自動修正してくれます。ですから、オペレーターは「ＡＳＣＳ」を使って『くる』っと旋回してつぎの畦に入れば、掘取口は見事なまでに畦の中心に合っています。

★コンベヤのＯＮ・ＯＦＦ操作は一切不要

掘り取り終了後、コンベヤ内に残るビートをタンク内に運びきったと同時にコンベヤが自動停止。さらに、掘り取り開始直前に自動的に回り始めます。

AROT & ASCSのすべてのモードを「自動」・「全自動」にしてしまえば、あなたはただ前を見てトラクターを畦に合わせて走らせるだけ！
あとはピタROWくんがビートを楽チン収穫してくれます。



ビートハーベスター

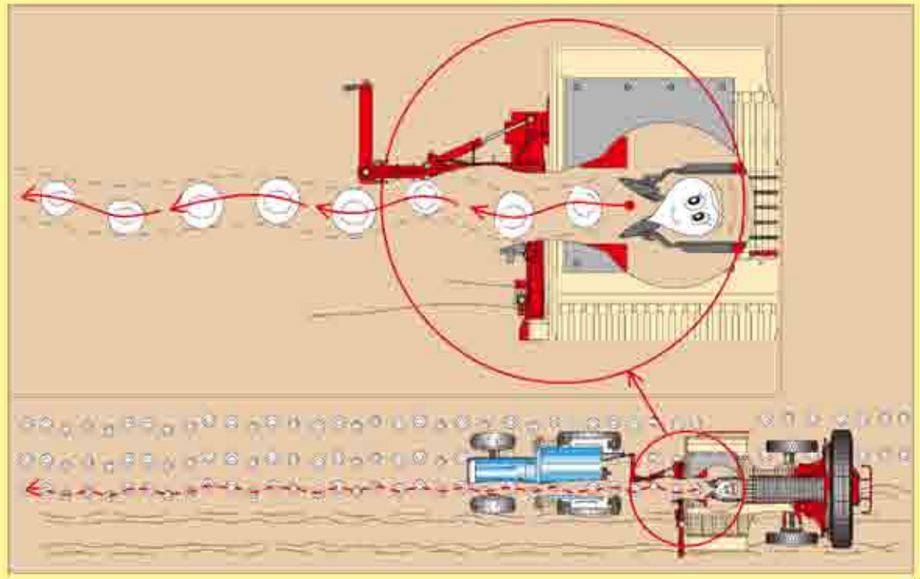
AROT

掘り取り作業中は常に畦のど真ん中！畦合わせ操作不要！！

SFIA式畦合わせセンサーが常にビートの列を感知して、掘取口が畦の真ん中にくるように合わせてくれます。「オペレーターは後ろを気にせず、トラクターを畦に沿って走らせるだけ」でビートをらくらく収穫。

自動　手動

畦合わせモード



従来のAROT未搭載機の場合、オペレーターはトラクターをビートの列に合わせて走らせながらハーベスターの掘取口をビートに合わせるため、後ろも見る必要がありました。ですから、常に前後を確認しつつトラクターを運転する技術と集中力が必要で、オペレーターの体への負担、精神的な負担は非常に大きなものでした。
でも、AROT搭載機の場合、SFIA式畦合わせセンサーがハーベスターの掘取口を常にビートの列に合わせてくれるので、オペレーターは後ろを気にせず、前を見てトラクターをビートの列に合わせて走らせることに集中でき、体への負担、精神的な負担は非常に軽減されます。

ACTRES

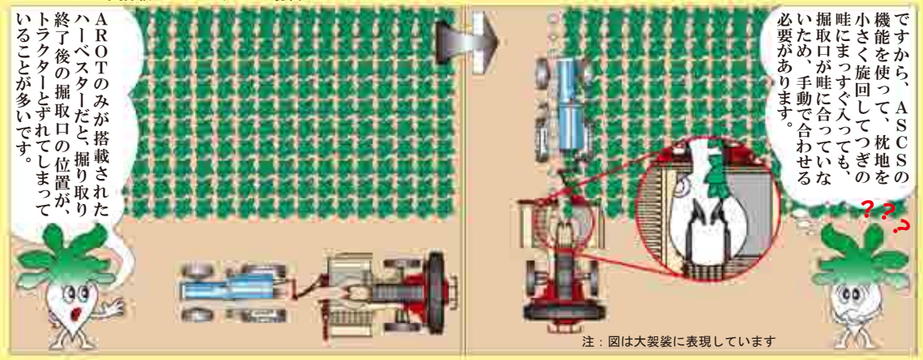
旋回中に掘取口を自動修正

AROTのみ搭載のハーベスターだと、畦に入った時に掘取口が畦に合っていないことが多く、掘取口を畦に合わせる操作が必要。でも、ACTRES搭載ハーベスターだと、畦合わせ操作不要。掘り取り終了後、掘取口の位置を自動修正してくれるので、畦に入ると掘取口が畦に合っています。

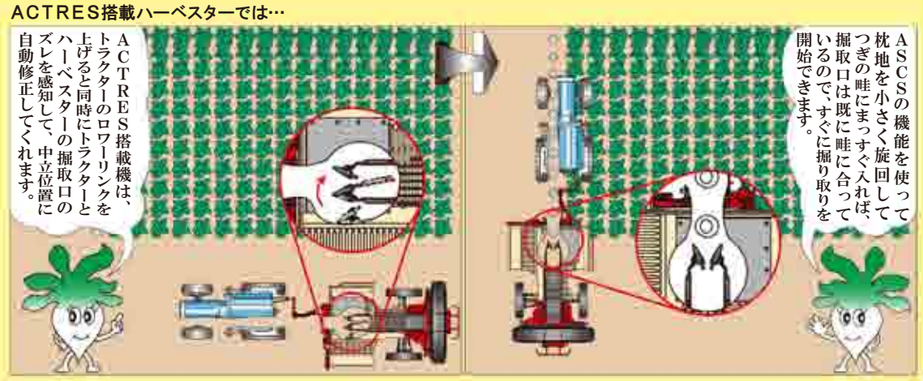
自動　手動

畦合わせモード

ACTRES未搭載ハーベスターの場合は…



ACTRES搭載ハーベスターでは…



COOS

コンベヤのON・OFF操作は一切不要

掘り取り終了後、コンベヤ内に残るビートをタンク内に運びきったと同時にコンベヤが自動停止。　さらに、掘り取り開始直前に自動的に回り始めます。

従来のAROT未搭載機の場合、コンベヤを回す・止める操作はオペレーターが操作ボックスで行っていました。された方もいらっしゃると思います。でもピタROWくんの場合、ロワーリンクを上げるとCOOSが掘り取り終了をコンベヤを回してくれます。ですから、コンベヤを回す・止めるといった煩わしい操作が一切必要ありません。
そのため止め忘れや掘り取り開始直前の回し忘れがありました。コンベヤを回し忘れて掘り始めて掘取口の前にビートが溜まって大変な経験を感知し、コンベヤ内に残っているビートをタンクに運び切ってから止まります。また、ロワーリンクを下ろすと同時に掘り取り開始を感知して、自動的に

自動　手動

畦合わせモード

自動　OFF　ON

コンベヤモード

＜掘り取り終了後＞

ロワーリンクを上げると…　ビートをタンクへ運んでからコンベヤが停止

＜掘り取り開始＞

ロワーリンクを下げると…　コンベヤが自動的に回転

ビートハーベスター

くるっと旋回ピタッと収穫　けん引式とは思えない抜群の機動性!!

単なるパワーステアリングとは全く違うASCS Automatic Steering Control System の5つの魅力!!

注：写真は端の１本の収穫風景です（機体を斜めにして掘っています）

★まるで逆位相タイプの４WS
（タイヤ角モード「全自動」）

枕地でらくらく旋回！しかも操作は全く不要！！ハーベスターのタイヤを切る、真っ直ぐに戻す、という作業はヒッチ角センサーとタイヤ角センサーの見事な連携プレーで自動的に行われます。ですから、オペレーターは前を見てトラクターをつぎの畦に合わせて入るだけ。

★土場に降ろしたビートを踏まずに脱出
（タイヤ角モード「半自動」）

レバー操作を1回行うだけで、後はタイヤ角センサーが自動的にタイヤをいっぱいに切ってくれます。もちろん、真っ直ぐに戻す時も同様にレバー操作を１回行うだけです。

★端の１本もらくらく収穫
（タイヤ角モード「手動」）

従来のハーベスターでは土手際等の端の１本は手で掘るのがあたり前。でも、ASCSが備わっていれば、ハーベスターを斜めにけん引できるのでハーベスターで収穫するのがあたり前。

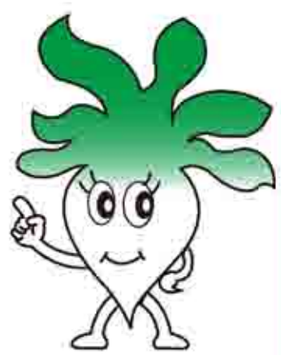
★傾斜地での横流れを防止
（タイヤ角モード「手動」）

ハーベスターのタイヤをちょっと山側に向けておけば、１２°位の傾斜まで収穫作業が行えます。

（※ただし、土質や土の水分条件、トラクターの種類等によって変わります。）

★バックも右へ左へ自由自在
（タイヤ角モード「手動」）

「けん引式のバックは面倒である、難しい」という概念をくつがえします。タイヤが右へ左へ自由自在に切れるのでねらった方向へ簡単にバックできます。



ビートハーベスター

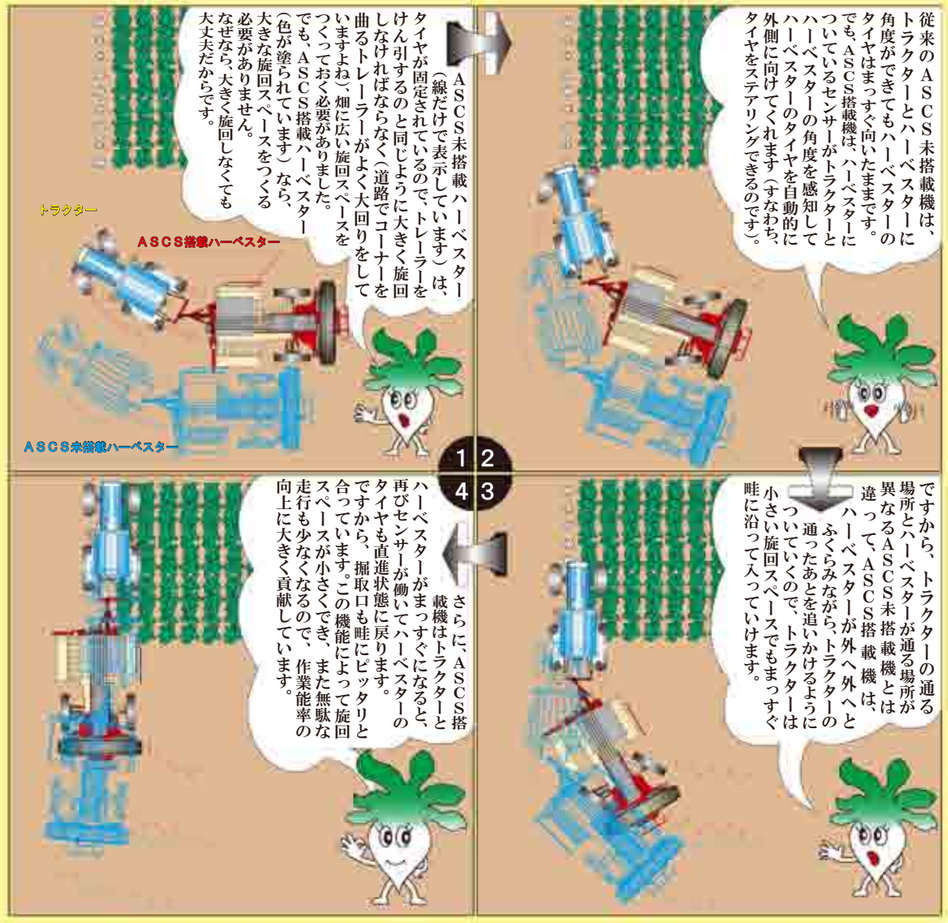
ASCS

まるで逆位相タイプの4WS！操作不要で枕地らくらく旋回！！

枕地でらくらく旋回！しかも操作は全く不要！！ハーベスターのタイヤを切る、真っ直ぐに戻す、という作業はヒッチ角センサーとタイヤ角センサーの見事な連携プレーで自動的に行われます。ですから、オペレーターは前を見てトラクターをつぎの畦に合わせて入るだけ。

全自動 手動 半自動

タイヤ角モード



レバー操作1回で土場のビートを踏まずに脱出

レバー操作を1回行うだけで、後はタイヤ角センサーが自動的にタイヤをいっぱいに切ってくれます。もちろん、真っ直ぐに戻す時も同様にレバー操作を1回行うだけです。

全自動 手動 半自動

タイヤ角モード

ビートハーベスター

端の1本もらくらく収穫

従来のハーベスターでは端の１本は手で掘るのがあたり前。でもＡＳＣＳが備わっていれば、ハーベスターを斜めにけん引できるのでハーベスターで収穫するのがあたり前。

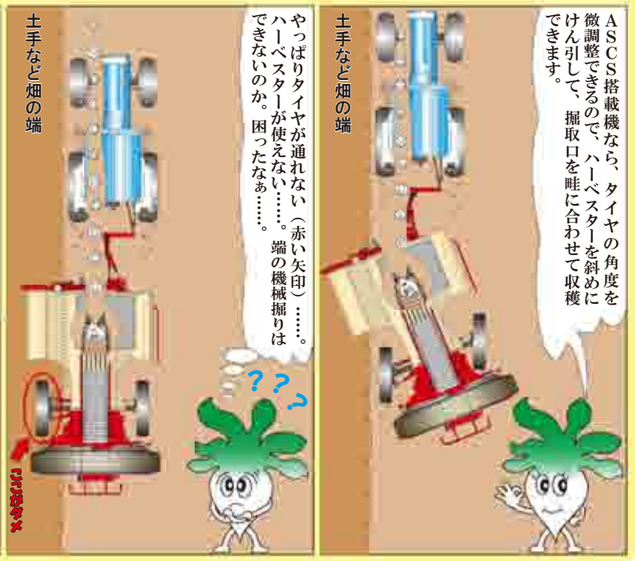
（※作業前にLタイプではタッパーと右側のコルター、Rタイプは左側のコルターを上げる必要があります。）

全自動 手動 半自動

タイヤ角モード

ASCS未搭載ハーベスターの場合は…

ASCS搭載ハーベスターでは…



傾斜地での横流れ防止

ハーベスターのタイヤをちょっと山側に向けておけば、12° 位の傾斜まで収穫作業が行えます。

（※ただし、土質や土の水分条件、トラクターの種類等によって変わります。）

全自動 手動 半自動

タイヤ角モード

バックも右へ左へ自由自在

「けん引式のバックは面倒である、難しい」という概念をくつがえします。タイヤが右へ左へ自由自在に切れるのでねらった方向へ簡単にバックできます。

全自動 手動 半自動

タイヤ角モード

ＡＳＣＳを搭載しているビートハーベスターだと、旋回もバックもまるでトラクターだけを運転しているように楽チンだから、ついついハーベスターをけん引していることを忘れてしまうね！

ビートハーベスター

過酷な使用条件もへっちゃら…強靭なボディー！
ライバルが見当たらない…高い完成度！！

410TURBOの真髄を受け継いだ3つの魅力!!

★はやい

綿密に計算されたコンベヤ幅、コンベヤ速度等により最高速度15㎞/hという驚異的な作業速度を実現しました。

（※ただし、土質や土の水分条件、トラクターの種類等によって変わります。また、タッパー付の機種は速度が上がる程タッピング精度が低下する傾向があります。）

★こわれない

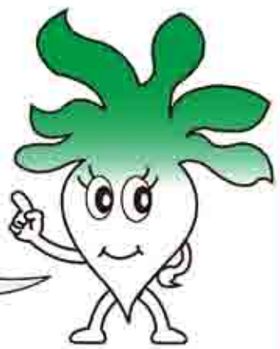
機体はコンピューターをフルに使って強度計算し尽くして設計されており、さらに石れき地帯を想定した過酷な実験にも耐え抜いているため、故障知らずの頑丈ボディです。
しかも、既に6，500台以上もの数多くのユーザーの方々によって、実証していただいております。

★こぼれない・もたつかない

上昇コンベヤはPTOが低回転時にも、こぼれの発生しないロータリーバケット方式を採用しました。しかも、単なるロータリーバケットとは違います。
トルクアジャスターにより、ロータリーバケット方式の大きな欠点といわれる「雨天時のスリップ」を見事に解消しました。

1983年にデビューした初代オリジナルビートハーベスター
410TURBOは、今も活躍しております。
まさしく「こわれない」※ビートハーベスターです。

※消耗部品の交換は行っていただくことが前提です。なお、消耗品は現在も互換性を持たせています。



Electrical Parts

（型式により装備内容は変わります。詳しくは装備一覧をご覧下さい。）

●操作ボックス（小型軽量・取付角度自在）（特許）

「ビタＲＯＷくん」への命令はすべてこの操作ボックスで行います。すべての切替スイッチを『自動』モードにしてしまえば、その後の操作は一切無用ですが、畦合わせやタイヤ角操作をジョイスティックタイプにしていますので、『手動』の場合でも操作性はバツグンです。しかもコンパクトかつ軽量で、ボックスの角度は無段階に調整できるうえ、方向も反転できるので、トラクターへの取付位置に応じて、お客様のお好みに合わせて最適な状態でセットできます。もちろんマグネット式でワンタッチ着脱ＯＫです。また、吸盤付操作ボックス台が付属されているので、ガラス面への取り付けも可能です。

水平取付状態　垂直取付状態

●超小型AROT制御ボックス

ＡＲＯＴの機能を凝縮したコンパクトな制御ボックスには、防塵・防水タイプを採用していますので雨中の作業やドロだらけになってもへっちゃらです。

●RVヒッチ角センサー（特許）

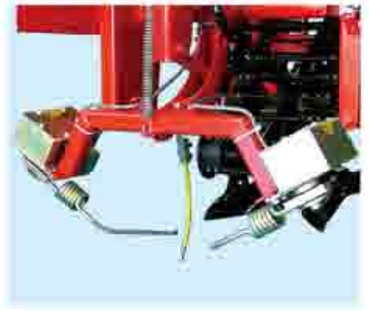
ＲＶ(Return timing Variable) ヒッチ角センサーがトラクターとハーベスター本体の折れ角をセンシングして右へ、左へとタイヤを動かす命令を出します。また、旋回速度に合わせて旋回後のタイヤの戻るタイミングを３段階に調整可能です。密閉式のため、雨風にもへっちゃらです。さらにコンパクトな構造ですのでオペレーターの視界の妨げになることもありません。

●タイヤ角センサー

ハーベスターのタイヤの切れ角をセンシングして右、左、真ん中でピタッと停止させます。密閉式のためドロだらけになってもへっちゃらです。

●SFIA式畦合わせセンサー（特許）

ＳＦＩＡ(Semi Floating Independent Antenna) 式畦合わせセンサーは、独立反応する左右それぞれの「く」の字形ロッド、スプリングサポート平行リンクサスペンションを備えているので、畦の凹凸はもちろんのこと、傾斜地等あらゆる条件のほ場でも絶妙な感度を保ち、何もしなくても掘取口を畦の真ん中に合わせてくれる、調整が一切不要のセンサーです。



●ACTRES（特許）

ＡＣＴＲＥＳ(Auto Center Return System) は、掘り取り終了後、ロワーリンクを上げると同時に畦合わせシリンダーが自動的に働き、掘取口を真ん中に戻します。したがってトラクターはつぎに掘り取る畦に真っ直ぐ入りさえすれば、掘取口は見事なまでに畦の中心に合ってくれます。

●コンベヤセンサー（特許）

ＣＯＯＳ(Conveyor On Off System) は掘り取り終了後にコンベヤ内に残るビートをタンク内に運んだ後に止まり、掘り取り開始直前にコンベヤを回し始めるコンベヤの自動ＯＮ・ＯＦＦシステムです。一切の操作の手間を省きつつもコンベヤの磨耗を抑えてくれるコンベヤに優しい装置です。

●コンベヤクラッチ（アンローディングセンサー付）

旋回時、回行時など不要なときにはコンベヤの回転をワンタッチで止めたままＡＳＣＳを作動させることができるので、無駄なコンベヤの磨耗を防止します。しかも誤ってコンベヤを回したままダンプアップしてもアンローディングセンサーの働きでコンベヤは自動的に止まってしまいます。

●テールランプ・ウィンカー

日暮れが早いビート収穫時期の夜間移動における安全を確保します。操作ボックスによる単独操作が可能なのでＤＩＮカプラがトラクターに装備されていなくても使用できます。ただし、その場合はトラクターのテールランプ・ウィンカーとは連動しません。またＤＩＮカプラに接続するためのアダプターも標準で付属しているので、カプラが装備されたトラクターの場合は連動させて使用することもできます。お使いになる方の安全性を最優先に考えた親切設計です。

ビートハーベスター

Cleaner & Digger

（型式により装備内容は変わります。詳しくは装備一覧をご覧下さい。）

●調整自在2×8薄型前クリーナー（特許・意匠）

高さ調整がワンタッチのうえ、芯間距離も３段階に調整可能です。しかもクリーナーゴムは、異例の左右それぞれが８本タイプなので、自慢の高速作業でもタッピングされた茎葉はもとよりビートの頭部に残った茎葉も見事にクリーニングします。また、オートチェーンテンショナーが内蔵されているので、チェーンがたるむ心配も無用です。さらに、クリーナーゴムはドーナツ型座金を用いた固定方式の採用により、４本のボルトを外すだけで簡単に８本のクリーナーゴムを交換できます。なお、クリーナーゴムにはカドにちょっとだけ丸みをつけ、ビートをいたわりながら茎葉を処理するソフトタイプ（写真左下）と、ソフトタイプより先端部での威力を２０％アップすることで、茎葉処理能力が２０％以上向上したハードタイプ（写真右下）の２種類を用意しております。８本中の４本をハードタイプ、４本をソフトタイプにする等、組み合わせての使用も可能なので、品種（茎葉の量）やタッピング状態、ほ場条件等に合わせてご使用下さい。

	ソフトタイプ	ハードタイプ
茎葉が少ない	○	○
茎葉が多い	△	○
ビートがグラグラしている	○	△
ビートがしっかりしている	○	○
頭部の茎葉をそぎ落とす	△	◎

クリーナーゴム（ハード）は、別途ご購入下さい。

●４ベアリング６ボルトウェーブコルター

掘取口のウェーブコルターは、高速作業に対応するため、４連のベアリングと６本のボルトによって固定されています。耐久性を重視した異例のヘビーデューティー仕様です。

●ウェーブコルター・ダブルコンベヤ付ワイド掘取口

理想的な形状のショベル、１５インチウェーブコルター、それにダブルコンベヤにより、飲み込みはバツグンです。しかも掘取口の幅は約４２０㎜とワイドなため、自慢の高速作業も楽々です。さらに面倒な補助コンベヤの張り調整も不要です。

●斜（シャ）カットレール（特許）＆丸曲げフレーム

第１コンベヤフレームに土砂や茎葉が溜まる、溜まった土砂などが第１コンベヤ部での土砂分離の妨げになる、また、掃除の時に溜まった土砂を取り除くのが大変である、そんな悩みを解消してくれるのが、この斜（シャ）カットレール＆丸曲げフレームです。従来の上面が平らなコンベヤフレームとは異なり、上面を斜めにカットした独自形状と縦フレームの形状を丸パイプとすることで、フレーム部へ土砂、茎葉が溜まるのを限りなく少なくしました。これにより、茎葉が落ちやすくなったのはもちろん、第２コンベヤへ運ばれる土砂、茎葉の量を大幅に削減し、さらに作業後の掃除も大変楽になりました。

●浅軽（あさがる）フレキシブルショベル（意匠）

浅く掘るとビートの根を切ってしまうから掘り取り深さがついつい深くなる、深くなると抵抗が大きくなりトラクターにも負担がかかる、という問題を解決してくれるのがこの浅軽フレキシブルショベルです。長年の研究に基づいたビートハーベスター専門メーカーならではの独自形状により、従来のショベルよりも浅く掘ることを実現しました。浅く掘れれば抵抗も小さくなり、軽くけん引できることとなります。また、当社オリジナルのフレキシブルバーが絶妙の「逃げ」を提供するので、ショベルと第１コンベヤとの石の挟まりも心配いりません。もちろん材質は特殊鋼を使用しているので耐磨耗性、耐久性もバツグンです。そのうえ根の長い直播ビートとの相性もバツグンです。

ビートハーベスター

Conveyor & Tank

（型式により装備内容は変わります。詳しくは装備一覧をご覧下さい。）

●ロッドチェーン・センターサポートイージーテンショナー

ロッドチェーンの緩みは、飲み込み性能を悪くする第１の原因とわかっていても張るのはなかなか面倒なもの。でも、もうご安心下さい。このセンターサポートイージーテンショナーなら、大きなローラーがロッドチェーンの中央部で最適なテンション効果を発揮してくれます。しかも調整はスパナ１丁で３分もあればＯＫ。もちろん狭い所に潜り込む必要は全くありません。

●パフォーマンスロッド・どロッド付第2コンベヤ（特許）

優れた土砂分離・茎葉処理性能を発揮すると評判のパフォーマンスロッド・どロッド付第２コンベヤは、かなり過酷なほ場条件においてもお客様に納得していただける分離性能を発揮します。

●コンベヤ磨耗軽減装置

高速度設計と、長寿命設計というこの相反する問題を高い次元で両立させるために材質、熱処理はもちろん形状など各部にさまざまな工夫を施してありますので耐磨耗性もバツグンです。

●片持ち式いたわり格子ロッドデフレクター（特許）

片持ち式いたわり格子ロッドデフレクターはローラーデフレクターのように駆動力を必要とせず、非常にシンプルな構造ですからメンテナンスも必要ありません。しかも石のかみ込みがありません。そのうえロッドにはソフトなゴムを焼き付けているのでビートをやさしくいたわります。

●すき間調整ゴム板付三角プレート（特許）

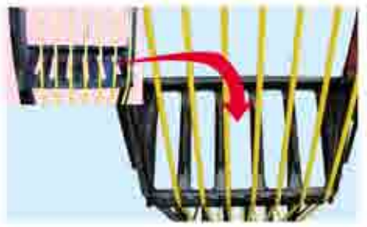
第２コンベヤの排出部に茎葉が溜まる、ビートがスムーズにロータリーバケットへ運ばれなくなる、そんな悩みを解消してくれるのが、三角プレートについているこのすき間調整ゴム板。従来の調整範囲をより大きく持たせることで、土質や茎葉の量に応じてスパナ１丁で簡単に調整できるようになりました。

●トルクアジャスター

ロータリーバケットの駆動輪の内側からバネで押さえ付けるローラーを設け、その圧力を調整することによって伝達トルクを自在に変えることができるという画期的な装置です。これにより、従来の２WD方式の３～４倍のトルクを伝えることができるようになりました。かみ合い駆動方式と相まって並みの２WDとは比べものにならない力強さです。

●プレスケルトンロータリーバケット（特許）

雨の後などは湿った土が仕切り板の穴をふさいでしまう、タンクの中にも土が溜まるので掃除をしなければならない、そんな問題を解消するのがこのプレス成形されたスケルトンタイプのプレスケルトンロータリーバケットです。従来のロータリーバケットより仕切り板の穴が大きくなっているので土の付着が少なく、土砂分離も非常に良くなっています。ですからタンクの中に土が溜まらず、余計な掃除が必要ありません。そのうえ独特の三角形状を採用することで強度が格段に高くなったうえ、一般的なバースケルトンタイプより軽量化することができました。



●フルフローティング・キャッチングプレート

ロータリーバケットとキャッチングプレートの間に石が挟まる、ロータリーバケットが音もなく止まる、目一杯詰まってからようやく気が付く…。石れき地帯におけるこの問題をフルフローティング・キャッチングプレートがさりげなく受け流し、一気に解決してくれます。しかもスタッフィングラバープレートによって石の挟まりを激減。石れき地帯でのノンストップ作業に大きく貢献します。

●アーチ型デザイン大型ハイダンプ（意匠）

６６０シリーズはタンク上部が斬新なアーチ型デザインとなっており、しかもタンク容量は７，７００ℓと超大型で、ご覧のように溢れるほど入ります。またダンプ支点の高さは２，６９０㎜と余裕タップリです。

●ブラックアウトメッシュ

夜間のビート収穫において、ビートがタンクに入っているかを確認することはとても大切なことの一つ。そこで、タンク前側のメッシュ部を黒つや消しに塗装することでタンク内部のビートの視認性を向上させました。

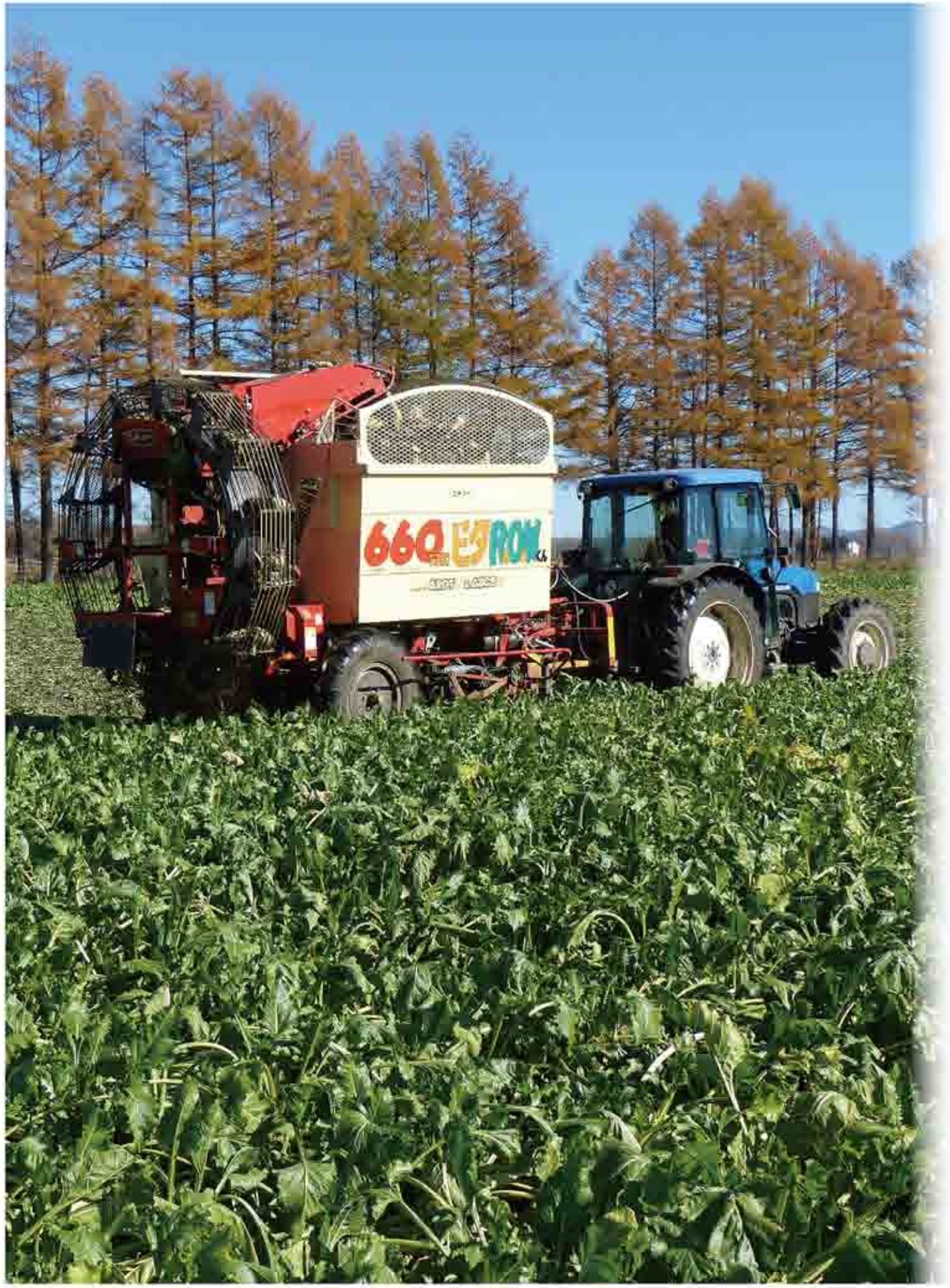
●いたわりネット（特許）・いたわりマット

タンク内へのビートの落下速度を、中間地点でゼロにします。したがっていつも落差は半分以下。また、ネット配列は上下２段でタンク内でのビートをひとつ残らずやさしくいたわります。さらにタンク底のビート落下地点に厚いゴムマットを敷き、掘り始めのビートをやさしくいたわります。

●オートマチックシャッター

ダンプアップ時にはタンク後方の切り欠きの部分が自動的に閉じてビートのこぼれを防止します。満タン時の荷降ろしも万全です。

ビートハーベスター



Other Functions

（型式により装備内容は変わります。詳しくは装備一覧をご覧下さい。）

●超大径２０インチラグタイヤ

ビタＲＯＷくんを支えるこの超大径２０インチラグタイヤは、深い「ラグ」が強力なグリップを提供しますので、悪条件になった時のタイヤがぬかる、ぬかると引きずる、引きずるとぬかる、といった悪循環をタイヤが強力に回ろうとして断ち切ります。回ろうとすれば引きずらない、引きずらなければぬからないとなります。また、「ラグ」は横方向にもグリップして、傾斜地での横流れ防止にも大きく役立ちます。

●右タイヤ駆動式高精度タッパー

タッパーは多角形式回転スクレッパー付のスケルトンタイプフィーラーホイールにより土砂の付着によってタッピング精度が変わることがありません。しかもタンク内にビートが入って重くなっても切断厚さは変わりません。どこまでも「薄く確実に」切れる精度の高いタッパーです。さらに駆動方式は全て右タイヤ駆動式のため、悪条件下でもしっかりとタッピングします。また、万が一のトラブルの際にも安全クラッチ付ジョイントが音を発して知らせてくれます。そのうえ、フレームには移動時の無駄な回転を止めるタッパー回転止め金具が付いており、ジョイントを付け替えるだけでタッパーの回転を止めることができる、至れり尽くせりのタッパーです。

●広角ジョイントとＰＴＯジョイントハンガー

ＰＴＯジョイントはどんな場合にも安心して回し続けることのできる広角ジョイントを採用しました。角度がきつくても最大７０°までへっちゃらです。またヒッチ部には格納時にジョイントを取り付けたまま一緒に格納できるＰＴＯジョイントハンガーも付いています。

●本機内蔵安全クラッチ装置

メイン動力の安全装置は全て爪クラッチ式を採用。作業時には音で異常を知らせます。安全ボルトのように交換する必要もないため、石れき地帯での能率アップに大きく貢献します。

●免傾自脱（めんけいじだつ）バネ付長さ調整式ヒッチ（特許）

トラクターが変わればＰＴＯジョイントの長さも変わります。そんな時はこの長さ調整式ヒッチで合わせて下さい。共同利用などの場合、特に便利です。またドローバーを傾けず水平に保ってくれる「免傾自脱バネ」が付いているので、トラクターへの取り付けも簡単に行えます。

●タイヤ切れ角表示板

タイヤの切れ角はケーブルを介して機械前面に表示されます。平面式のため、見る方向による誤差がありません。

●ワンタッチ注油口

チェーンの注油はカバーを外さずに指１本でＯＫ。始業点検の時間を短縮し、機械の寿命を延ばします。また、整備等でカバーを外す場合でもスパナ等の工具は不要。蝶ボルト方式を採用しておりますので工具を使わずカバーの着脱が可能です。

ビートハーベスター

土場に降ろすビートを見事な連携でやさしくまもる
いたわりバン ＆ ふまんガード

●いたわりバン（特許）

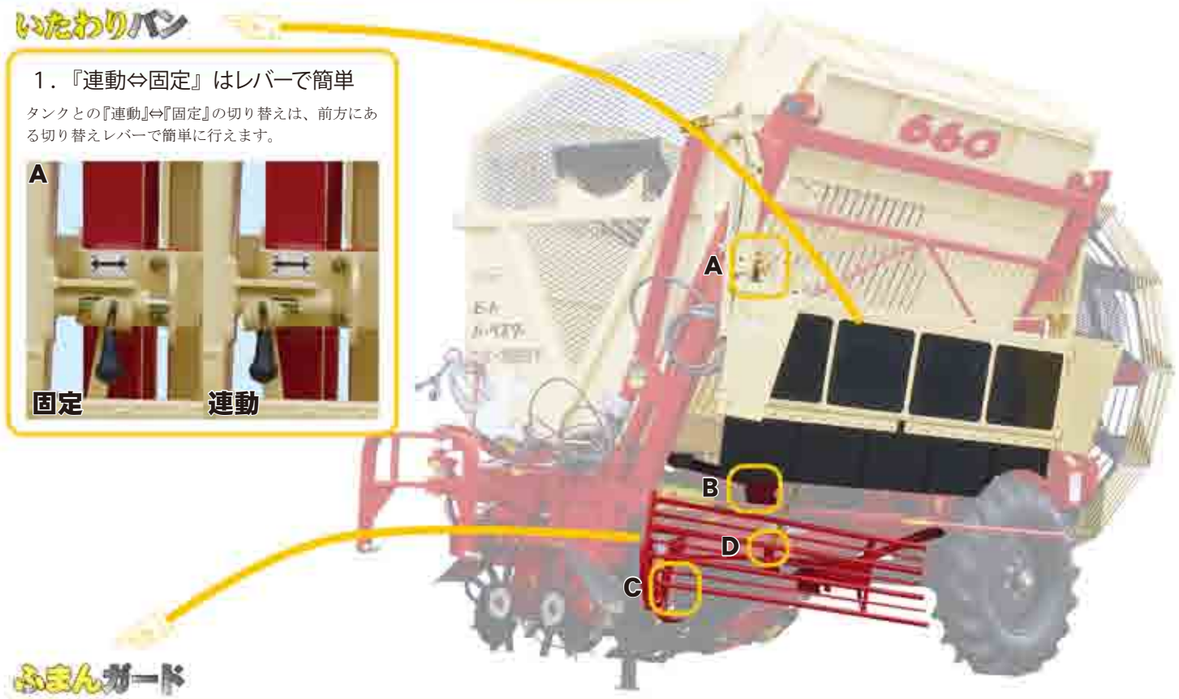
土場にビートを直接荷降ろしする時の土場との落差を軽減し、ビートへのショックをやわらげます。しかも、高い山を形成できます。そのうえゴムを多用した本格派仕様です。

●４３０シリーズ用●６６０シリーズ用

●ふまんガード（特許）

土場にビートを降ろしてから脱出する時にハーベスターのタイヤで大切なビートを踏んでしまう、せっかく一生懸命育てたビートが土場に埋もれてしまう…、割れてしまう…、そんな不満を解消してくれるのが、このふまんガード。ふまんガードはタンクを上げると下がり、下げると上がる…、タンクに連動して下がったり上がったりするシンプルだけど画期的なアイテム。非常に丈夫ですが、土場に降ろしたビートを踏まずにやさしくいたわってくれます。

●６６０シリーズ用



1．『連動⇔固定』はレバーで簡単

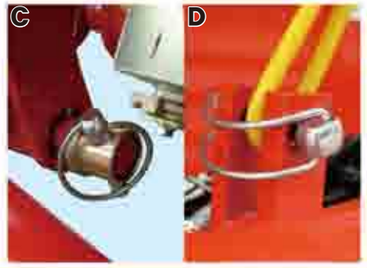
タンクとの『連動』⇔『固定』の切り替えは、前方にある切り替えレバーで簡単に行えます。

1．『連動⇔固定』はピン1本

『連動』⇔『固定』の切り替えは、タンク下にある切り替えピンの場所を変えるだけ（常時「連動」で使用しても問題ありません。使用しない時のムダな動きを止めたい場合などに「固定」を使用して下さい）。

2．開閉も楽チン楽チン

「ふまんガード」の開閉もガード前方のリンチピンの抜き差しと、「ふまんガード」本体を吊っているワイヤーを外すだけ（掘取口周辺のグリースアップやロッドチェーンの張り調整の邪魔になりません）。



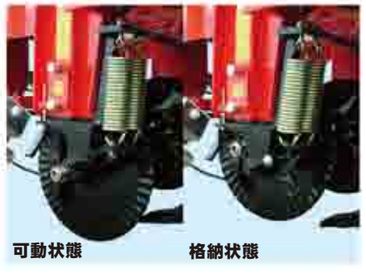
3．ダンプ⇔土場の切り替え不要

「ふまんガード」はハーベスターのタイヤより飛び出しません。『連動』でガードが下がってもダンプ受けが可能なので、ピンの入れ替えをする必要はありません。

≪石れき地帯の強い味方≫

●DSSAコルター（特許）

石が多くコルターが割れてしまう、といった石れき地帯特有の悩みを解消してくれるのがこのＤＳＳＡ（Dual Spring Shock Absorb）コルターです。計算し尽くされた２本のバネと独自のリンク機構を持つこのコルターは、どんなに硬い畑でもふらふら逃げることなくしっかりと土を切ります。さらに石がある場合のみまるで石を感知しているかのように石の衝撃から逃げ、コルターを護ってくれます。また土手際等の端の１本を掘る場合、ロックボルトを一切緩めることなくたった１本のピンを差し替えるだけでコルターを可動状態から格納（上げた）状態に簡単に切り替えできる親切設計となっています。



≪重粘土地で一層の土砂分離≫

●ローラーデフレクター

重粘土地帯でより一層の土砂分離・茎葉処理能力を発揮するのがこのローラーデフレクター。ローラーが高速回転をするので、パフォーマンスロッド・どロッド付第２コンベヤとのコンビネーションで強制的に土砂分離・茎葉処理を行います。また、ローラーにはゴムを焼き付けているのでビートへのいたわりもバッチリです。

≪茎葉が多いビートに最適≫

●サイドペアクリーナー ２×６（特許）

掘り取る前にビートの茎葉をしっかりと除去しておかないと飲み込み不良の原因になってしまいます。そこで登場するのがこのサイドペアクリーナー２×６。合計１２本のクリーナーゴムが、つぎに掘り取る畦のビートの茎葉をしっかりとクリーニングしていくので、掘り取る前の茎葉が気になりません。茎葉の量が多い品種のビートでもヘッチャラです。

ビートハーベスター

ニチノー LX-660T
左ダンプ式、タッパー付
安全鑑定番号　33099/10

●標準タイプ

■主な装備
●5,000kg 超大型タンク ●AROT ●ASCS ●SFIA式畦合わせセンサー ●ACTRES ●COOS ●コンベヤクラッチ ●超大径20インチラグタイヤ
●高さ、芯間調整式前クリーナー（オートチェーンテンショナー付） ●右タイヤ駆動式高精度タッパー ●トルクアジャスター付プレスケルトンロータリーバケット

ニチノー LX-430T
左ダンプ式、タッパー付
安全鑑定番号　27205/10

●標準タイプ

■主な装備
●2,900kg 大型タンク ●AROT ●ASCS ●SFIA式畦合わせセンサー ●ACTRES ●COOS ●コンベヤクラッチ ●超大径20インチラグタイヤ
●高さ、芯間調整式前クリーナー（オートチェーンテンショナー付） ●右タイヤ駆動式高精度タッパー ●トルクアジャスター付プレスケルトンロータリーバケット

ニチノー RX-660
右ダンプ式、タッパー無
安全鑑定番号　33100/10

●標準タイプ

■主な装備
●5,000kg 超大型タンク ●AROT ●ASCS ●SFIA式畦合わせセンサー ●ACTRES ●COOS ●コンベヤクラッチ ●超大径20インチラグタイヤ
●高さ、芯間調整式前クリーナー（オートチェーンテンショナー付） ●トルクアジャスター付プレスケルトンロータリーバケット

ニチノー RX-430
右ダンプ式、タッパー無
安全鑑定番号　27206/10

●標準タイプ

■主な装備
●2,900kg 大型タンク ●AROT ●ASCS ●SFIA式畦合わせセンサー ●ACTRES ●COOS ●コンベヤクラッチ ●超大径20インチラグタイヤ
●高さ、芯間調整式前クリーナー（オートチェーンテンショナー付） ●トルクアジャスター付プレスケルトンロータリーバケット

■装備一覧

●＝標準装備
△＝注文装備（別途料金が発生いたします）

	ニチノー LX-660T	ニチノー RX-660	ニチノー LX-430T	ニチノー RX-430
■ヒッチ系統				
免傾自脱バネ付長さ調整式ヒッチ	●	●	●	●
先端スラストメタル	●	●	●	●
ケーブル・油圧ホースホルダー	●	●	●	●
PTOジョイントハンガー	●	●	●	●
■動力伝達系統				
本機内蔵安全クラッチ付ジョイント	●	●	●	●
PTO広角ジョイント	●	●	●	●
コンベヤクラッチ（アンローディングセンサー付）	●	●	●	●
トルクアジャスター	●	●	●	●
ワンタッチ注油口	●	●	●	●
■掘り取り系統				
浅軽フレキシブルショベル	●	●	●	●
リジッドコルター（15インチ）	●	●	●	●
DSSAコルター（15インチ）	△	△	△	△
斜カットレール＆丸曲げフレーム	●	●	●	●
■コンベヤ系統				
ワンタッチ取り外し式掘取コンベヤガード	●	●	●	●
ロッドチェーン・センターサポートイージーテンショナー	●	●	●	●
補助コンベヤオートテンショナー	●	●	●	●
コンベヤ磨耗軽減装置	●	●	●	●
フローティングサポート補助コンベヤ	●	●	●	●
パフォーマンスロッド（3本）	●	●	●	●
どロッド（3本）	●	●	●	●
片持ち式いたわり格子ロッドデフレクター	●	●	●	●
ローラーデフレクター	△	△	△	△
プレスケルトンロータリーバケット	●	●	●	●
スタッフィングラバープレート	●	●	●	●
ナイスキャッチプレート	●	●	●	●
フルフローティングキャッチングプレート	●	●	●	●
ロータリーバケット脱落防止装置	●	●	●	●
送りコンベヤ石抜きロッド	●	●	●	●
■クリーナー系統				
調整自在前クリーナー　2×8（オートチェーンテンショナー付）	●	●	●	●
サイドシングルクリーナー	●	●	●	●
クリーナーゴム（ソフト）	●	●	●	●
クリーナーゴム（ハード）	△	△	△	△
サイドペアクリーナー　2×6		△		△
■タッパー系統				
右タイヤ駆動式高精度タッパー	●		●	
タッパー安全クラッチ装置	●		●	
タッパーイージージャッキ	●		●	
後期用ナイフステム	●		●	
ディスクコルター（14インチ）	●		●	
タッピングナイフ（2枚）	●		●	
■足廻り系統				
超大径20インチラグタイヤ	●	●	●	●
■電気系統				
小型軽量・取付角度自在操作ボックス（マグネット付）	●	●	●	●
ASCS	●	●	●	●
AROT	●	●	●	●
ACTRES	●	●	●	●
COOS	●	●	●	●
テールランプ・ウィンカー	●	●	●	●
ケーブルアダプター	△	△	△	△
■タンク系統				
アーチ型デザインタンク	●	●		
部分ブラックアウトメッシュタンク	●	●	●	●
ダンプ自動折タタミ式エクステンション	●	●	●	●
オートマチックシャッター	●	●	●	●
いたわりネット	●	●	●	●
いたわりマット	●	●	●	●
いたわりバン	△	△	△	△
ふまんガード	△	△		
■付属品・その他				
工具箱	●	●	●	●
標準工具	●	●	●	●
取扱説明書	●	●	●	●
駐車スタンド	●	●	●	●
駐車ブレーキ（輪止め式）	●	●	●	●

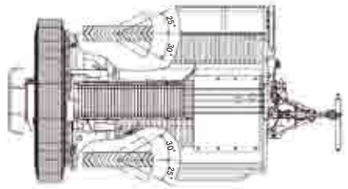
■主要諸元

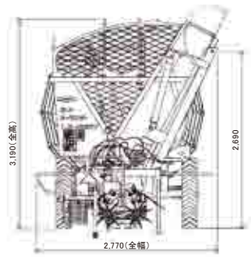
		ニチノー LX-660T	ニチノー RX-660	ニチノー LX-430T	ニチノー RX-430
品名		ビートハーベスター			
愛称		ピタROWくん			
型式					
規格		1畦			
適応トラクター(kW{PS}以上)		51{70}		44{60}	
カテゴリー		Ⅰ・Ⅱ*1			
装着方法		トラクターけん引式			
全長(mm)		5,030			
全幅(mm)		2,770		2,740	
全高(mm)		3,190		3,045	
重量(kg)		2,825	2,670	2,555	2,400
作業畦幅(mm)		600～660,690	600～690	600～660,690	600～690
タッピング機構	フィーラーホイール形式	スケルトンタイプ	なし	スケルトンタイプ	なし
	フィーラーホイール幅×直径(mm)	246×556		246×556	
	スクレッパー形式	多角形回転板式		多角形回転板式	
	動力源	右タイヤ		右タイヤ	
茎葉処理機構		サイドシングル*2＋前クリーナー（芯間、高さワンタッチ調整式、オートチェーンテンショナー付）			
掘り取り機構		2ポイントショベル			
畦合わせ機構		AROT			
ステアリング機構		ASCS			
使用電源		DC 12ボルト			
掘り取りコンベヤ		センターサポートイージーテンショナー付ロッドチェーン＋補助コンベヤ			
上昇コンベヤ		トルクアジャスター付プレスケルトンロータリーバケット＋送りコンベヤ			
排出機構		左ダンプ	右ダンプ	左ダンプ	右ダンプ
タンク容量(m^3)		7.7		4.5	
ダンプ支点高さ(mm)		2,690		2,640	
満タン排出時所要油圧(MPa{kgf/cm^2})		16{160}		15{150}	
ダンプアップ所要時間*3(sec)		12.1		10.0	
タイヤ	サイズ	10.00-20 10PR			
	空気圧(kPa{kgf/cm^2})	290{3.0}		250{2.5}	
作業速度*4(m/s)		～4.2		～4.2	
作業能率(a/h)(効率)		～60(60%)		～50(50%)	

＊１：ロワーリンクピンは大リンクが標準です。小リンクをご希望のお客様はあらかじめ担当セールスにお申しつけ下さい。＊２：Rタイプ（タッパー無し）はサイドペアクリーナーが注文装備です。
＊３：トラクター油圧吐出量が毎分３５リットルのときの理論値なので、トラクターの種類によって変わります。＊４：作業速度は土質・ほ場の水分条件、地形、トラクターの馬力数によって変わります。
詳しくは担当セールスにお尋ね下さい。

■寸法図

ニチノー　LX-660T





ニチノー　LX-430T